

ただいま、卒業証書を授与した三百七名の皆さん、卒業おめでとう。

心からお祝いを申し上げます。

卒業式にあって、様々な思いが去来することと思います。その中で、まず、思いをはせていただきたいのは、これまで皆さんを見守り、支え、導いてこられた、保護者の方をはじめ多くの方々に対する感謝の気持ちです。皆さんは、この場において、新たな道に踏み出そうとしています。今、この時、多くの方々から受けた温情をわすれてはいけません。

皆さんは本校で学んだ三年間を、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという未曾有の厄災のなかで、厳しい制約を受けながら過ごされました。令和二年三月に始まった突然の休校措置で、皆さんが楽しみにしていた入学式さえ実施されることがありませんでした。全く予期していなかった経験をされたことでしょう。むろん、皆さんだけではなく、日本中の、さらには世界中の皆さんと同年代の生徒や学生が同様の苦しい経験を味わってきたわけです。

休校期間には、校内に自由に入ることもままならず、学校が再開しても分散登校やオンライン授業となりました。努力の結果勝ち取った本校での学校生活のスタートも思いどおりにならず、部活動はもとより新たな友人達との日常的な楽しい語らいも対面では自由に行きたくない、まことにつらい日々であったと思います。本校での学びで大きな役割を果たす行事においても中止や開催方法の変更を迫られることがありました。

本校教職員も、皆さんに新宿高校生として、これまでの皆さんの先輩方が歩んできた道と同じような道をできるだけ歩ませたいと、日々検討し、議論しながら学校を運営してきました。しかし、感染拡大という未知の事態の中で、時にはかなり厳しいお願いをしなければならないこともありました。皆さんは本当によくがんばっていただいていたと思います。ここにあらためて感謝します。

コロナ禍のこの3年、人生の大切な節目の場や舞台を失ったこともあったでしょう。しかし、日本中の、いや世界中の誰もが、みな平等に何かを失ったのかもしれない。

そんな中、皆さんは今できることを精一杯取り組み、精一杯楽しんできました。昨年4月、二度の延期を余儀なくされながら出発した修学旅行。引率の先生方から送られてくる写真で皆さんが充実した旅行を楽しんでいる様子を見てほっとしていました。3日目の晩、食事会場で皆さんが「校長先生ありがとうございます。」と声をそろえていつてくださる動画が送られてきました。これを見たとき、皆さんに我慢をお願いしていたことや、苦しい中で決断したことすべてが思い出され、そして皆さんがいろいろな我慢をしながらも修学旅行を楽しみ、加えて感謝の念さえも伝えてくれていることを見て、こみ上げるものがありました。うれしかったです。ありがとう。

また、日々の通学の際には、緊急事態宣言が発令されていたり、近くの駅で感染拡大防止のため外出抑制の協力を呼び掛ける放送が流れていたりするなか、楽しげに旅行に向かお

うとする大人や、夜の繁華街で騒ぐ大人の姿がありました。そして、それと同時に、そのような勝手な大人の姿をあえて見ないようにしているかのように、参考書を見つめながら足早に登校する皆さんの姿も見てきました。人生の中で一番青春を謳歌し、最も活動的であるべき時期にある皆さんが、守るべきことを守り、その中で自分が今できることにひたすら取り組もうとする姿にいつも心打たれていました。

私が、皆さん全員が、まさに指導者たるにふさわしい良心と分別をもっていていると感じるゆえんはここにあります。

この異常事態の中で、皆さんは、自身がこれから進もうとするそれぞれの分野に関連して、これからの世界の在り方について、いろいろ考えることも多かったのではないかと思います。今回のパンデミックは、この世界には既存の知識や考え方では容易に解決に至らない大きな問題があるということ、人に感じさせ、考えさせるものになりました。

今日、私たちは気候変動と大規模災害、感染症パンデミック、人口・食料問題、貧困と社会格差など、数多くのグローバルな課題に直面しています。皆さんの真価は、当事者として、課題に正面から取り組み、解決に向かう指導者として、本校で学んだこと、今後学ぶことを駆使して、これから皆さんがどのような働きをされていくかにかかっていると言えます。たとえ遠い道のりであっても、皆さんがその確固とした学識と創造的な思考力によって人々と社会に貢献していただき、指導者として社会の人々から必要とされることによって、新宿高校卒業生としての立場も確固たるものになると思います。

私が大変お世話になった方から、いただいた言葉に「うまくやろうとせず、正しくやりなさい」というものがあります。

仕事をしているうえで、また、生活をしているうえで、人は様々な課題にぶつかります。この課題に真正面から取り組むのは本当に骨の折れることです。私たちは直面する課題をうまくかわしたり、決められた手順をごまかしたりすることで、課題を乗り越えたと思いたくなるものです。しかし、それではいけません。正しくやりなさい。正しくやることは時に遠回りであったり、大きな労力を要することになったりするかもしれません。でも、皆さんは指導者となる人たちです。先頭に立つ人たちです。ごまかしてうまくやるのではなく、果敢に課題に取り組み、正しくやってください。そのような人に、人々はついて行きます。私自身もそうありたいと思っています。

本校の創設の根本精神である校是は「全員指導者たれ」です。百年前に本校が建てられたときからこの校是のもと多くの先輩が優秀な指導者たるべく社会に向けて巣立っていきました。そして、現に指導者として社会の様々な場面で先頭になって課題を解決してきました。本日卒業を迎えた三百七名の皆さんが新たにここに加わります。皆さんには、将来の日本や世界の直面する課題に果敢に取り組み、導く指導者たる存在になっていただきたいと心から思っています。

結びに、今日の卒業の日まで、皆さんを支え励ましてこられたご家族やご親族の方々もさぞやお喜びのことと思います。ご列席の保護者の皆様、卒業生の皆さんに代わり心から感謝

しお祝いを申し上げたいと思います。卒業生の皆さんは、今、とても晴れがましく、決意に満ちた目でこちらを見てくれています。ありがとうございました。また、これまで本校への御理解、御協力、本当にありがとうございました。

ご列席の来賓の皆様にも、七十五回生の晴れの門出を見届けていただき、衷心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、ここにいる誰もが、大家族のように、あなたを応援しています。
さあ、胸を張り、大きく一歩を踏み出してください。

令和五年三月十四日

東京都立新宿高等学校長 藪田 憲正